

## 9月のねらい及び今月の各クラスの自己評価・自己評価を踏まえての改善点・保護者と地域への子育て支援

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで友達と一緒に運動遊びをし十分に体を動かす。(縄跳び、鬼ごっこ、かけっこ、リズム遊びなど。)</li> <li>・行事に参加し、みんなで協力したり競い合ったりすることを楽しむ。(運動会など。)</li> </ul>
-------	---

クラス名	年長児(さくら組)	年中児(うめ組)	年少児(たんぽぽ組)
自己評価	<p>・運動会にむけての活動では、こども達の日頃の様子や遊びをみながら競技内容を決めていったことで、無理なく慌てずに取り組むことが出来た。インボルブ運動教室で出来るようになつたことも取り入れたことで、自信をもって競技が出来体を動かすことを楽しみながら運動会が出来た。練習では気持ちが乗らない子もいたが、子どもの気持ちやタイミングを見極めながら声をかけたり、一緒に活動するようにした。気持ちに寄り添う時もあれば、こぞという場面では取り組んだり、メリハリを付けながら活動が出来たと思う。</p>	<p>運動会のクラス競技で、縄跳び、けんけんば、跳び箱などを取り入れたことで、跳ぶ運動、片足でバランスをとる運動、体を腕の力で支える運動など、楽しみながらいろいろな身体能力を高めることができた。遊戯では隊形移動の方法で保育者が悩み、いろいろと変更したため、こども達が混乱してしまったかもしれないが、練習頻度を調整して、リレーや玉入れなどこども達が好きな演目をはさみながら無理なく行うことができた。</p>	<p>・運動会に向けた活動を通して友達や保育者と体を動かして遊ぶことの楽しさを感じている姿が見られた。また、1番になりたいという向上心や負けたくないという悔しさ、競争心が芽生え情緒的な育ちも見られるようになってきている。体を柔軟に動かす経験を今後も取り入れ自信を持って過ごせるようにしていきたい。</p>
自己評価を踏まえての改善点	<p>・本番で成功させることも大切だが、それまでの取り組みの過程を大事にしながら関わっていく。『出来ない』『わからない』不安を理解し、そこから『出来た』と自信に繋げていくためにはどうしたらよいのかを考えながら活動していきたい。</p>	<p>勝ち負けで悔しがったり、意欲が低下したりする子は殆どいなかったが、負けても「相手が頑張っていたね。」と讃える気持ちや、次はもっと自分が頑張るぞと次の意欲に繋げる気持ちを保育者が言語化しながら一緒に心も成長できるようにし、その過程を楽しめるようにしたい。</p>	<p>特に新入園児が体を動かす経験が少ない様子が見られた為、サーキット遊びやダンスなど体を大きく動かす粗大運動遊びを引き続き取り入れて行きたい。</p>
保護者と地域への子育て支援	<p>・運動会の活動中の様子をお帳面や口頭で知らせる。今頑張っている事、出来るようになった子と、あと少しで出来そうなことをお伝えした。家庭での話しの話題になつたり、運動会を楽しみにする気持ちを親子で持ち続けられるようにしていった。</p>	<p>運動会の取り組みではどのようなねらいがあり、子ども達にどのような力をつけたくて取り入れたかを知らせる。こども達の変化をドキュメンテーションで伝えたり、個々に連絡帳で知らせていったりした。最初は意欲的ではない姿もその子なりの思いを考察しながら丁寧に伝え、成長後の姿も一緒に喜べるように伝えたりした。</p>	<p>運動遊びが増えるため着替えの補充や排せつ機能が整っている子が多くなったため普通の布パンツの用意を必要に応じて呼びかけていた。また、運動会に向けた活動の中で頑張っていることや育ってきている面を伝えることで保護者が期待感や</p>
クラス名	2歳児(すみれ組)	1歳児(ふたば組)	0歳児(つぼみ組)
自己評価	<p>運動会に向けての練習を行っていく。雰囲気を楽しめるように、練習を見に行ったり、真似してみたりして過ごす。普段から、園庭で以上児がリレーごっこを楽しんでいるのが印象的だったようで、真似してリレーコースを走ることを楽しんでいた。コースから離れることなく走っていた。同じ場所で雰囲気を感じていただけだと思っていたが良く見て、同じように真似して楽しめていた。</p>	<p>・運動会の雰囲気を味わえるように以上児の練習風景を見学したり、笛に合わせてかけっこごっこなどの運動遊びを無理なく活動を取り入れた。またクラス競技もこども達の今楽しんでいる事や自分でできたという喜びを感じられるものを取り入れたことで楽しみながら参加することができた。</p>	<p>運動会に向けてマットを使った遊びや、音楽に合わせて身体を動かす遊びを取り入れた。月齢の差が大きい為、一緒になって同じことをする難しさを感じたが、保育者の手のかけ方によって一つの物で月齢関係なく遊べることができた。歌や手遊びに多く触ることで、保育者が歌うと自然と集まり身体を動かしたり、手遊びの動きをしてリクエストする姿が見られた。</p>
自己評価を踏まえての改善点	<p>以上児の活動を真似して楽しみたい、真似してみたいという気持ちが芽生えているので、ごっこ遊びの中に、取り入れながら楽しんでいきたい。また、友達同士と言葉でのトラブルが増えてきてるので、友達とのかかわり、一緒に考えながら、友達と楽しく遊べるように関わっていきたい。</p>	<p>自分でやってみたい気持ちや遊びたい気持ちが更に高まっている姿も見られているが、思うようにいかず泣いてしまうこともある。泣いたり、怒ったりせずに言葉で伝えられるように今後も気持ちを受け止めて、代弁しながら一人一人のタイミングに合わせて援助していきたいと思う。</p>	<p>少しづつできる事が増えたり、やってみようとする姿が見られてきている為、自分で取り組める時間を設け、時間に余裕をもって活動していきたい。又、季節に合った歌を歌いながらこども達が好きな音楽やリズムを見つけていきたい。</p>
保護者と地域への子育て支援	<p>トイレトレーニング、午睡中も布パンツで過ごせている子がほとんどになつたので、園でのトイレの様子を伝えながら、家庭と一緒に進めていく。</p>	<p>・朝晩の寒暖差や疲れから風邪症状の子が増えている。家庭での様子、園での様子、体調の変化に気を付け連携をしていく。</p> <p>・爪が長い子が多かったため、個別に声をかけ、切っていたとき、安全に遊べるように伝えしていく。</p>	<p>自分でしようとしている事(手や食具を使って自分で食べる、おしおりで口拭く等)頑張っている姿を伝えながら、園での取り組み方を知らせていき、家庭でも真似しながらやりやすいように伝えていく。</p>